團十郎夫人・希実子好み

茶屋ごろも

十代目 市川團十郎

■ブランドコンセプト

團十郎夫人・希実子好み『茶屋ごろも』とは、
江戸歌舞伎を代表する名門、市川宗家「成田屋」の夫人として
十二代 市川團十郎さん、十一代目 市川海老蔵さんを支えきた
堀越希実子さんが、着物と触れ合う日常のなかで磨いたセンスと
心で着こなす、正統派の装いをご提案します。

堀越希実子 デザイン・監修

東京生まれ。
学習院大学仏文科卒業後、1976年に当代團十郎丈(当時 海老蔵)と結婚。
長年にわたり、着物ブランド「茶屋ごろも」のデザイン・監修を手掛ける。
磨かれたセンスを反映した作品は多くのファンを持つ人気ブランドに育っている。
著書には「堀越希実子の着物ごよみ」(主婦の友社)など.

■茶屋とは・・・

「茶屋」は、江戸時代に生まれた、
人と人とが出会う場所。
簡素な「掛茶屋」、
味でもてなす「料理茶屋」、
集いのための「待合茶屋」、
「芝居茶屋」「大茶屋」など、
様々な出会いのための世界が「茶屋」と呼ばれ、
江戸の人々の社交場だったのです。
茶屋から粋が生まれ、
華が生まれ洒落が育ちました。

『茶屋ごろも』は、茶屋の心と感性を
大切にしたい大人のための装いです。

茶屋ごろも

十代目 市川團十郎

■デザイン

・ふだんの暮らしの中から得た、着物の品と装いを伝えたい。

・出ず入らず（出しゃばらず、控えめすぎず）・・・。

着物には昔ながらの約束事が多いけれど、着るほどに便利さと合理性に驚かされます。
歌舞伎役者の家の妻として、お客様より派手にならず、かといって地味すぎない
「出ず入らず」の装いを心がけています

・控えめだけれども華やぎのある装い。

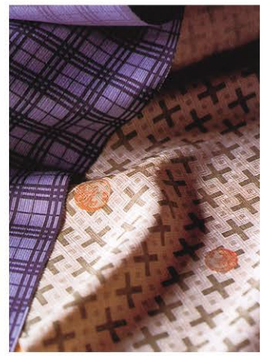
■モチーフ

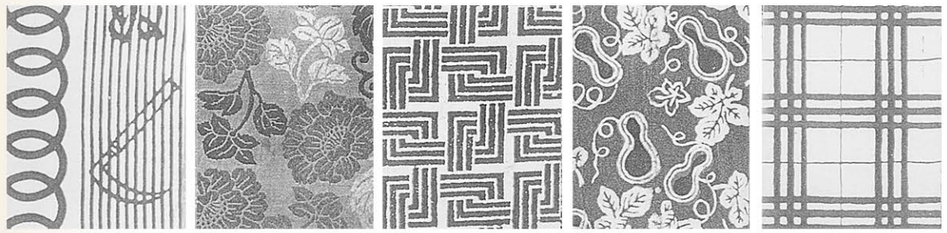
・和の伝統を踏まえた意匠を中心に

着物の決まり事や伝統を踏まえて、
私が着たいという色を選び、文様も私が好きな
霞みぼかしや流水文様、荒磯文様、歌舞伎の演目に
由来の文様などを取り入れています。

・成田屋ゆかりの意匠もふんだんに

歌舞伎の演目からの文様、和の雅、市川家の文様の
團十郎格子、新之助格子など多くは役者、
舞台衣装などに深い関わりがあるものや、
成田屋由来のものが題材です。。





かまわぬ　福牡丹　六弥太格子　瓢箪模様　三筋格子

茶屋ごろも

十代目 市川團十郎

■「きものはオートクチュール」という考え方

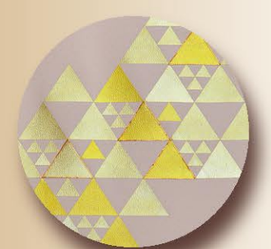
地色を吟味し、京友禅の職人さんに彩色を
何度も指示させて頂きます。

金彩加工の職人さんへも、
こだわりを施して頂きます。
無駄なところで加工をせず、
大切な箇所に注力し美しさを探ります。

このようなこだわりは
「きものはオートクチュール」と考えているからです。

安価というだけで、満足感が無ければ
長年に渡ってその着物を愛せません。

『茶屋ごろも』は丁寧な仕事と
センスを着物に染込ませ、
心が染込み、長年に渡って
着続けていただけるブランドです。



牡丹唐草附下げ
唐草中文染金彩なごや帯

オリエント金彩 附下げ
唐草大文染金彩なごや帯

葡萄唐草繋ぎ小紋
宝づくし織なごや帯

南蛮船附下げ
抽象立涌文袋帯

雫金彩小紋
格子 織なごや帯

洋唐草金彩附下げ
瑞雲袋帯

波濤散らし小紋
立涌牡丹織なごや帯